

## 舟ヶ谷の城山（ふながやのしろやま）

舟ヶ谷の城山は、新野の篠ヶ谷・有ヶ谷・平田ヶ谷にまたがる山に占地し、牧之原台地が新野の中心平野部に張り出した先端部にあたり、この地を治める今川系新野氏の居城と伝承されている。

この城は残念ながら昭和 45 年から 50 年頃にかけて造られた篠ヶ谷の舟ヶ谷から有ヶ谷にぬける大規模農道の工事に伴って城の八割が消失し、現在はその西側の外郭部を僅かに残すのみとなった。しかし幸いに昭和 45 年、簡単ではあるが縄張調査を行い、また一部の遺構の写真が撮影されており、その概略を知ることができる。

**写真：主郭より北東を睨み、大規模農道方面を望んでいる。左隅の三角形の白く見える所は削られた山の斜面でその手前に新しく出来た大規模農道がある。写真中央のこんもりとした、茶畑でないところは図にある井戸跡の東側の土塁（高さ大人の背丈位）である。**

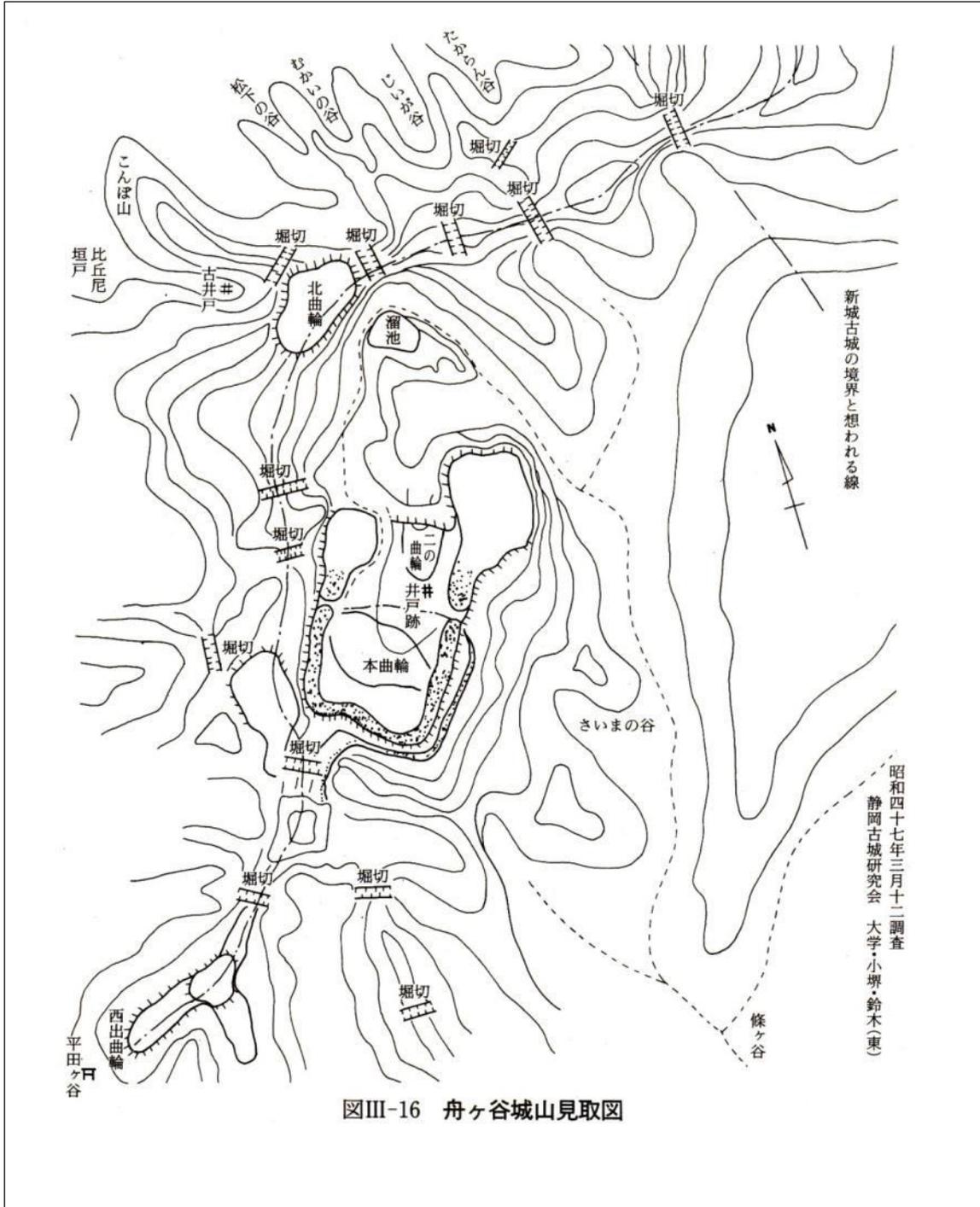
かつては、第二の詰城の八幡平の城と尾根で連なっており、主郭は土塁を周辺に構え、腰曲輪・出曲輪・横堀等で防備し、見事な山城の遺構があった。もちろん、この横堀や多くの堀の造り方は従来の今川系の築城法にはみられないもので、武田氏の手法と考えられるものである。戦国期特に天正初期、高天神城を中心とした武田・徳川両軍の攻防の頃、武田軍により以前からの城を改修されたものの遺構と思われる。



写真 鈴木東洋先生撮影

※引用文献『城きちがいの寝言』鈴木東洋

『浜岡町史 資料編 考古』平成 18 年 御前崎市



舟ヶ谷の城山見取図 昭和47年当時